

平成 17 年 12 月 8 日
内閣府国民生活局企画課

平成 17 年度国民生活モニター調査結果（概要） （省資源・省エネルギーに対する意識・行動調査）

1. 調査目的

循環型社会の形成や地球温暖化防止を促進する観点から、
①「環境にやさしい買い物」に対する意識と取り組みの状況
②地球環境問題や省資源・省エネルギーに対する意識と取り組みの状況 等
国民の意識・行動の実態を調査し、その結果を今後の施策展開の基礎資料として活用するため、国民生活モニターへのアンケート調査を実施した。

なお、平成 16 年 11 月と 12 月にも同様の調査を行っており、今回は前回の調査結果との比較も行った。

2. 調査期間

平成17年11月1日(火)～ 平成17年11月14日(月)

3. 調査対象者

全国の国民生活モニター : 2,000 人

〔 有効回答者数 : 1,919 人
回収率 : 96.0% 〕

(参考)

国民生活モニター制度とは、国民生活施策を効果的に実施するため、消費者の購買態度や意識の把握、国民生活行政に対する意見の把握、いろいろな商品等の価格や各種サービス料金の実態の把握、政府等からの正確な情報の提供等のために、昭和 48 年から実施されているものである(「国民生活モニター」の名称は平成 13 年から)。また、モニターは全国に約 2,000 名おり、任期は 4 月から翌年の 3 月までの 1 年間、調査報告や意見を提出することとなっている。

【調査結果の概要】

1. 商品を購入する際に、ごみ・資源・エネルギーなど環境のことを考えているか(4頁 問1)

- いつも考えている 20.6%
- だいたい考えている 59.1%
- 合計 79.7%

【前回調査(H16.12)との比較】

- 「いつも考えている」と「だいたい考えている」の割合の合計が上昇(77.3%→79.7%)

2. 日常の買い物の際に実践している環境配慮行動(複数回答 5~6頁 問2)

- シャンプーや洗剤などは、詰め替え用の商品を選ぶ 89.1%
- 家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ 72.6%
- 長く使えるものを選ぶ 71.4%

【前回調査(H16.12)との比較】

- 実践している者の割合が全体的に上昇
- 「家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ」の割合が上昇(68.8%→72.6%)

3. 日常の買い物の際に、環境配慮行動の妨げになっていること(複数回答 7頁 問3)

- 環境に配慮した商品は価格が高い 68.8%
- 環境に配慮した商品の種類や量が少なくて選べない 50.7%

【前回調査(H16.12)との比較】

- 上昇したもの
 - ・ 環境に配慮した商品の種類や量が少なくて選べない 47.3%→50.7%
 - ・ いつも行く店で環境に配慮した商品を扱っていない 14.2%→17.2%

4. 環境に配慮した商品を購入しやすくするために小売店や製造業者に求めること(3つまで複数回答 8~9頁 問4)

- 環境に配慮した商品と従来品との価格差をなくす 69.4%
- 商品の簡易包装化を進める 54.1%
- 環境に配慮した商品の品目を増やす 41.3%

【前回調査(H16.12)との比較】

- 小売店や製造業者に求める者の割合が全体的に上昇
- 上昇したもの
 - ・ 商品の簡易梱包化を進める 50.0%→54.1%
 - ・ 環境に配慮した商品の品目を増やす 37.7%→41.3%
 - ・ 環境に配慮した商品を消費者にわかりやすく陳列する 35.1%→38.1%
 - ・ はかり売り、ばら売りを増やす 30.6%→33.5%

5. 消費者が環境のことを考えて商品を購入するようになれば企業の環境保全の取り組みが促進されると思うか(10 頁 問5)

- 促進されると思う 41.0%
- ある程度促進されると思う 52.9%
- 合計 93.9%

【前回調査(H16.12)との比較】

○「促進されると思う」の割合が上昇(37.6%→41.0%)

6. 日常生活の中でのエネルギーについて、どの程度関心があるか(12 頁 問7)

- 非常に関心がある 30.6%
- ある程度関心がある 62.7%
- 合計 93.3%

【前回調査(H16.11)との比較】

○「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の割合の合計が低下(94.7%→93.3%)

7. 地球温暖化防止のため、個人の日常生活における取り組みについてどのように考えているのか(13 頁 問8)

- 積極的に取り組む 21.6%
- できる部分があれば取り組む 74.9%
- 合計 96.5%

【前回調査(H16.11)との比較】

○「積極的に取り組む」と「できる部分があれば取り組む」の割合の合計に大きな差異は見られないが、「積極的に取り組む」の割合が上昇(19.3%→21.6%)し、「できる部分があれば取り組む」の割合が低下(76.9%→74.9%)

8. 実際に行っている省エネ行動(複数回答 14～15 頁 問9)

- 不必要な電灯や冷暖房機器はこまめに消す 92.2%
- 部屋の冷暖房を控えめにする 79.8%
- テレビ・ラジオのつけっぱなしをやめたり、視聴時間を減らす 75.0%

【前回調査(H16.11)との比較】

○大幅に上昇したもの

- ・ 省エネルギー型の家電製品や自動車などを利用する 34.6%→44.7%

○その他上昇したもの

- ・ 入浴は家族全員が間をあけないようにすませる 39.3%→42.6%

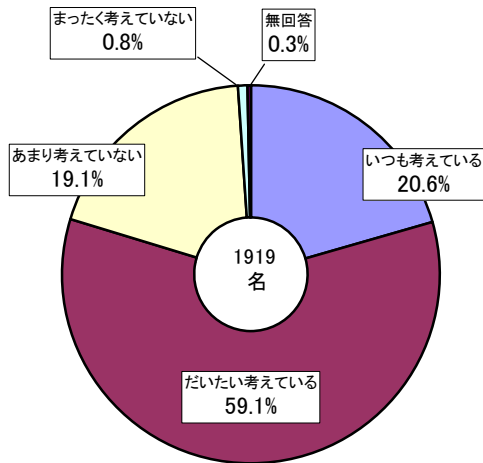
○低下したもの

- ・ カーテンやブラインドなどを利用し、 57.4%→53.7%
窓からの熱の出入りを防ぐようにする
- ・ 壁などに断熱材をいれる 20.2%→17.0%

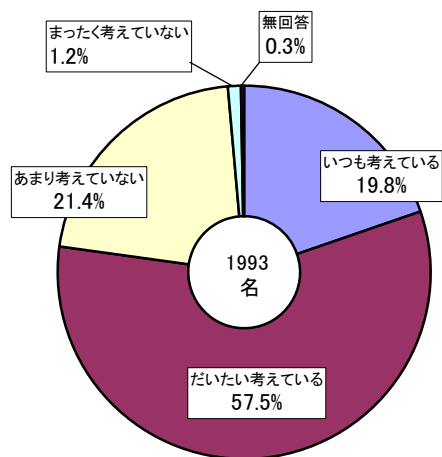
問1 あなたは、商品を購入する際に、ごみ・資源・エネルギーなど環境のことを考えていますか。次の中から1つだけ○をつけてお答えください。(○は1つだけ)

- 1 いつも考えている
- 2 だいたい考えている
- 3 あまり考えていない
- 4 まったく考えていない

H17. 11



H16. 12

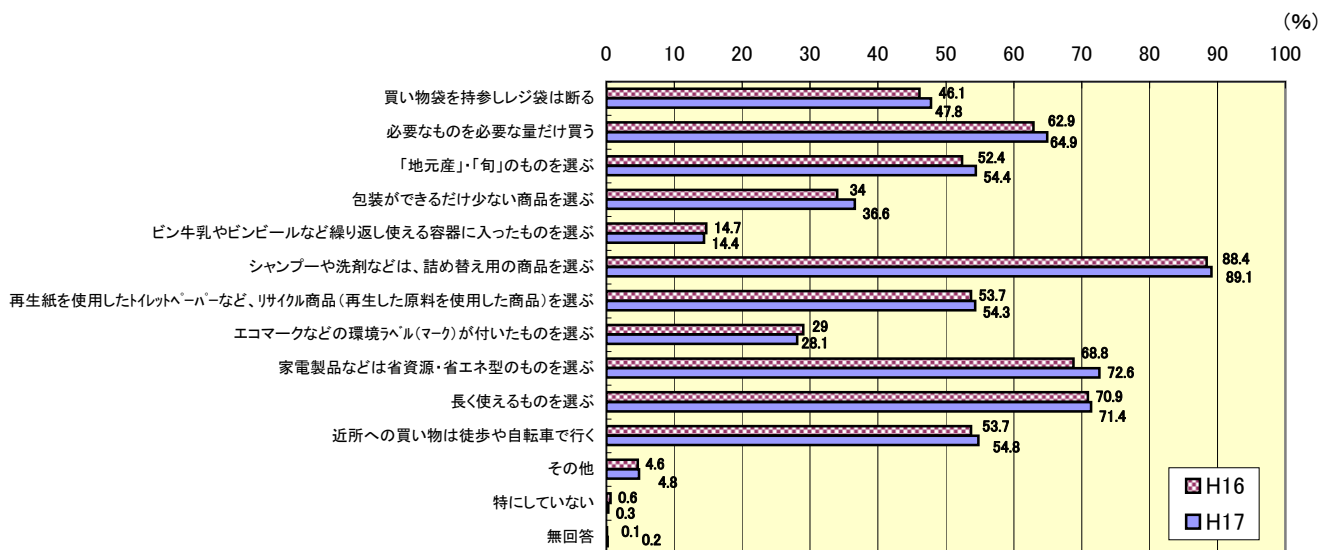


商品を購入する際に、ごみ・資源・エネルギーなど環境のことを「考えている」とする者の割合が79.7%（「いつも考えている」20.6%+「だいたい考えている」59.1%）、「考えていない」とする者の割合が19.9%（「あまり考えていない」19.1%+「まったく考えていない」0.8%）となっている。

前回の調査結果（平成16年12月調査をいう。以下、問6まで同じ）と比較してみると、「考えている」（77.3%→79.7%）とする者の割合が上昇し、「考えていない」（22.6%→19.9%）とする者の割合が低下している。

問2 あなたは、日常の買い物の際、環境に配慮して実践していることがありますか。次の中からいくつでも○をつけてください。（○はいくつでも）

- 1 買い物袋を持参し、レジ袋は断る
- 2 必要なものを必要な量だけ買う
- 3 「地元産」、「旬」のものを選ぶ
- 4 包装ができるだけ少ない商品を選ぶ
- 5 ビン牛乳やビンビールなど繰り返し使える容器に入ったものを選ぶ
- 6 シャンプーや洗剤などは、詰め替え用の商品を選ぶ
- 7 再生紙を使用したトイレットペーパーなど、リサイクル商品（再生した原料を使用した商品）を選ぶ
- 8 エコマーク（右図参照）などの環境ラベル（マーク）が付いたものを選ぶ
- 9 家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ
- 10 長く使えるものを選ぶ
- 11 近所への買い物は徒歩や自転車で行く
- 12 その他（ ）
- 13 特にしていない



日常の買い物の際、環境に配慮して実践していることとして、「シャンプーや洗剤などは、詰め替え用の商品を選ぶ」と答えた者の割合が89.1%と最も高く、以下、「家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ」(72.6%)、「長く使えるものを選ぶ」(71.4%)などの順となっており、反対に「ビン牛乳やビンビールなど繰り返し使える容器に入ったものを選ぶ」と答えた者の割合が14.4%と最も低く、以下、「エコマークなどの環境ラベル(マーク)が付いたものを選ぶ」(28.1%)、「包装ができるだけ少ない商品を選ぶ」(36.6%)などの順となっている。

また、前回の調査結果と比較してみると、各取り組みについて実践しているとしている者の割合が全体的に上昇しており、特に「家電製品などは、省資源・省エネ型のものを選ぶ」(68.8%→72.6%)と答えた者の割合が上昇している。

【その他の自由回答(主なもの)】

○リサイクルショップなどを活用して売買する

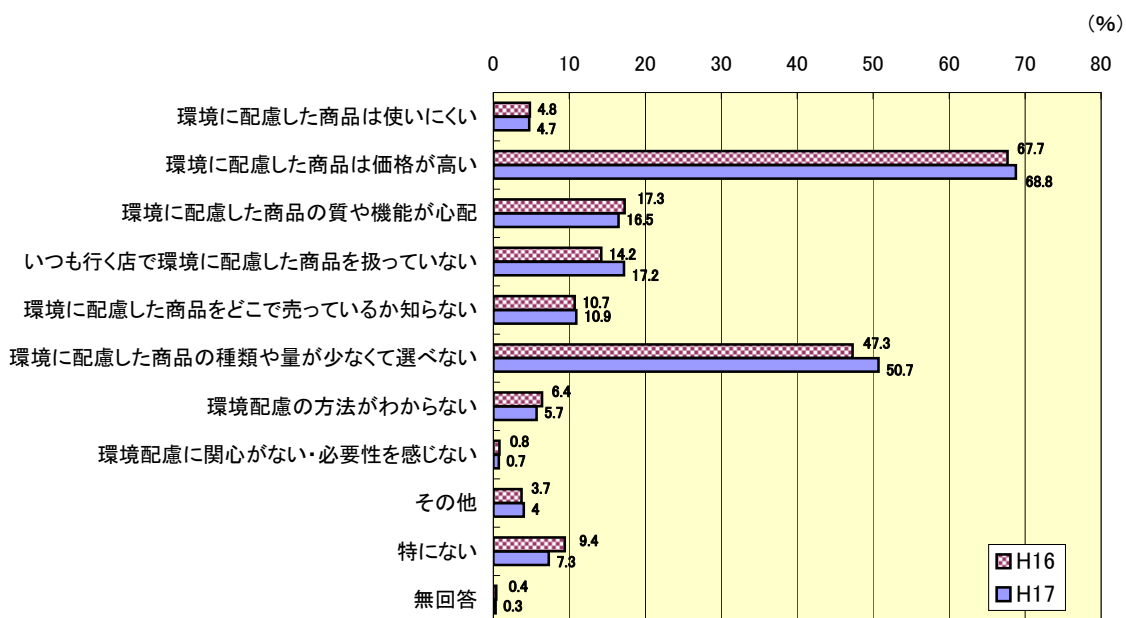
○余分な包装や袋などは断る

○環境に配慮した店舗で買物をする

○肉は肉屋、魚は魚屋など包装が少なく新鮮なものをおいている所で必要な分だけ買う

問3 あなたが日常の買い物をする際、環境に配慮した行動をとりにくい、あるいは、環境に配慮した行動の妨げとなっていることはありますか。次の中からいくつでも○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----|-------------------------|
| 1 | 環境に配慮した商品は使いにくい |
| 2 | 環境に配慮した商品は価格が高い |
| 3 | 環境に配慮した商品の質や機能が心配 |
| 4 | いつも行く店で環境に配慮した商品を扱っていない |
| 5 | 環境に配慮した商品をどこで売っているか知らない |
| 6 | 環境に配慮した商品の種類や量が少なくて選べない |
| 7 | 環境配慮の方法がわからない |
| 8 | 環境配慮に関心がない・必要性を感じない |
| 9 | その他 () |
| 10 | 特になし |



日常の買い物の際に、環境に配慮した行動をとりにくい、あるいは、環境に配慮した行動の妨げとなっていることとしては、「環境に配慮した商品は価格が高い」と答えた者の割合が68.8%と特に高く、次いで、「環境に配慮した商品の種類や量が少なくて選べない」と答えた者の割合が50.7%と特に高くなっている。

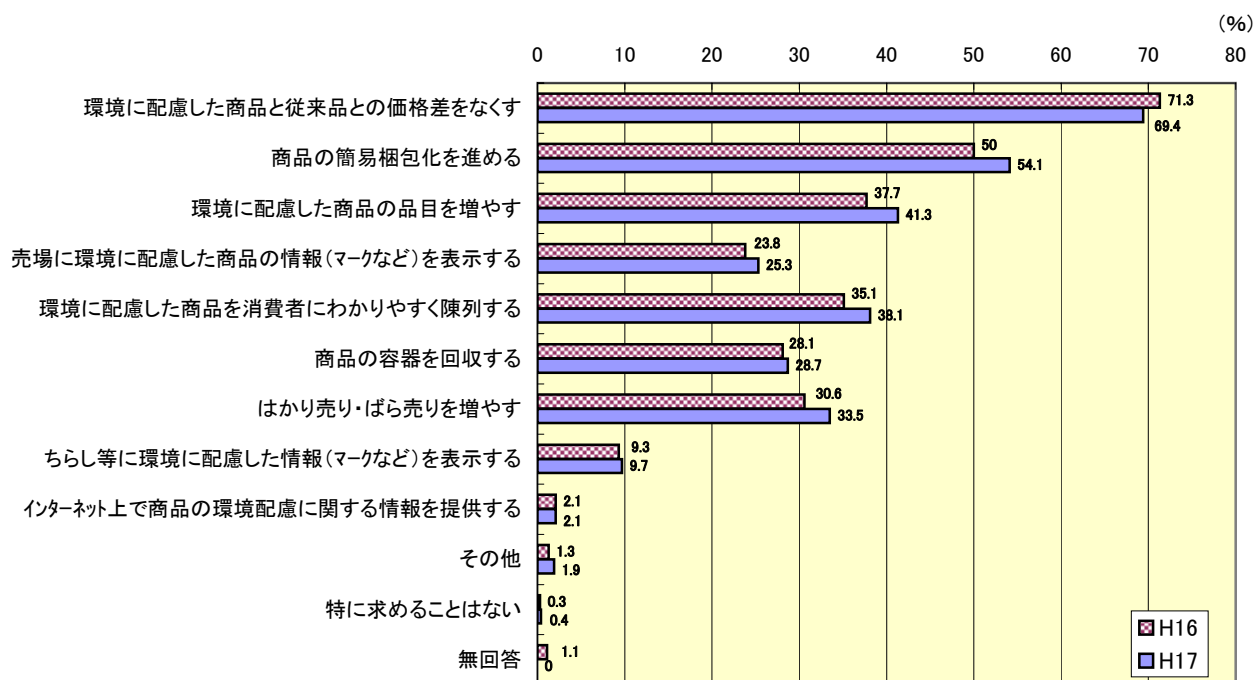
前回の調査結果と比較してみると、「環境に配慮した商品の種類や量が少なくて選べない」(47.3%→50.7%)、「いつも行く店で環境に配慮した商品を扱っていない」(14.2%→17.2%)と答えた者の割合が上昇している。

【その他の自由回答】

- 徒歩や自転車で買物をしたいが、近くにお店がない
- 商品1つ1つが過剰包装されている
- どのように環境に配慮したのかの説明がない
- 商品の環境負荷の程度が分らない

問4 消費者が環境に配慮した商品を購入しやすくするために、あなたは、小売店や製造業者に何を求めますか。次の中から3つまで○をつけてください。
(○は3つまで)

- | | |
|----|------------------------------|
| 1 | 環境に配慮した商品と従来品との価格差をなくす |
| 2 | 商品の簡易梱包化を進める |
| 3 | 環境に配慮した商品の品目を増やす |
| 4 | 売場に、環境に配慮した商品の情報（マークなど）を表示する |
| 5 | 環境に配慮した商品を消費者にわかりやすく陳列する |
| 6 | 商品の容器を回収する |
| 7 | はかり売り、ばら売りを増やす |
| 8 | ちらし等に環境に配慮した情報（マークなど）を表示する |
| 9 | インターネット上で商品の環境配慮に関する情報を提供する |
| 10 | その他（ |
| 11 | 特に求めることはない |



環境に配慮した商品を購入しやすくするために、小売店や製造業者に求めることとして、「環境に配慮した商品と従来品との価格差をなくす」と答えた者の割合が69.4%と最も高く、以下、「商品の簡易梱包化を進める」(54.1%)、「環境に配慮した商品の品目を増やす」(41.3%)、「環境に配慮した商品を消費者にわかりやすく陳列する」(38.1%)などの順になっている。

前回の調査結果と比較してみると、それぞれの取組について小売店や製造業者に求める者の割合が全体的に上昇しており、特に「商品の簡易梱包化を進める」(50.0%→54.1%)、「環境に配慮した商品の品目を増やす」(37.7%→41.3%)、「環境に配慮した商品を消費者にわかりやすく陳列する」(35.1%→38.1%)、「はかり売り、ばら売りを増やす」(30.6%→33.5%)と答えた者の割合が上昇している。

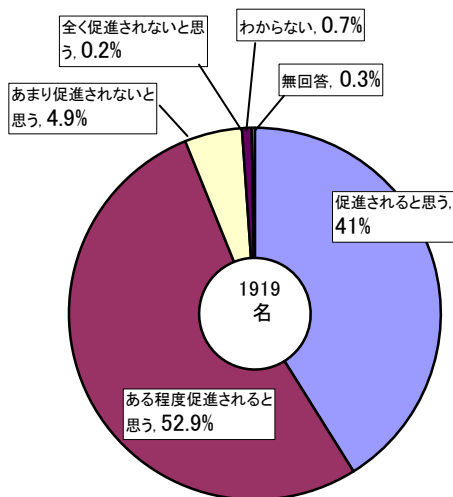
【その他の自由回答(主なもの)】

- 消費者に分かるように製品の成分を表示してほしい
- メーカー側は、不用な包装を取りのぞいてシンプルに商品化してほしい
- 詰替商品の方が割高なことがよくある。環境に配慮した商品を従来品より安くしてほしい
- 食品売場ではトレイの使用をできるだけ減らしてほしい

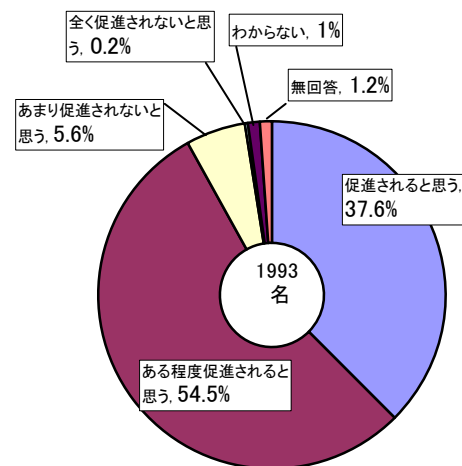
問5 あなたは、消費者が環境のことを考えて商品を購入するようになれば、企業の環境保全の取り組みが促進されると思いますか。次の中から1つだけ○をつけてお答えください。(○は1つだけ)

- 1 促進されると思う
- 2 ある程度促進されると思う
- 3 あまり促進されないと思う
- 4 全く促進されないと思う
- 5 わからない

H17. 11



H16. 12



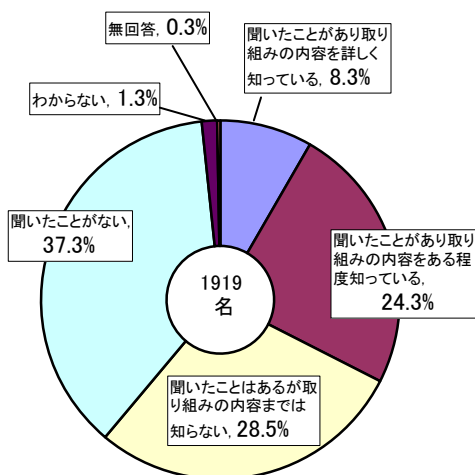
消費者が環境のことを考えて商品を購入するようになれば、企業の環境保全の取り組みが「促進されると思う」とする者の割合が93.9%（「促進されると思う」41.0%＋「ある程度促進されると思う」52.9%）、「促進されないと思う」とする者の割合が5.1%（「あまり促進されないと思う」4.9%＋「全く促進されないと思う」0.2%）となっている。

前回の調査結果と比較してみると、特に「促進されると思う」（37.6%→41.0%）とする者の割合が上昇している。

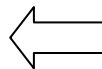
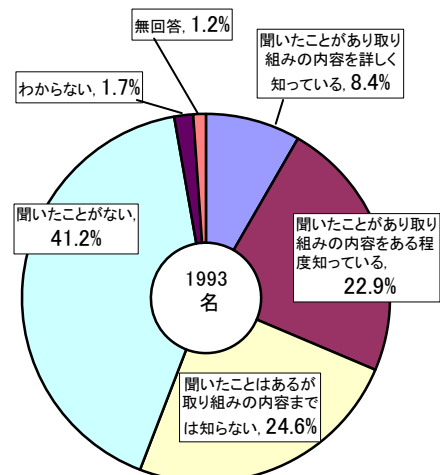
問6 あなたは、買い物袋の持参や環境に配慮した商品の購入など「環境にやさしい買い物」の実践を呼びかけるキャンペーンについて、今年の10月に各都道府県下において行われていたことをご存じですか。次の中から1つだけ○をつけてお答えください。（○は1つだけ）

- 1 聞いたことがあり、取り組みの内容を詳しく知っている
- 2 聞いたことがあり、取り組みの内容をある程度知っている
- 3 聞いたことはあるが、取り組みの内容までは知らない
- 4 聞いたことがない
- 5 わからない

H17. 11



H16. 12



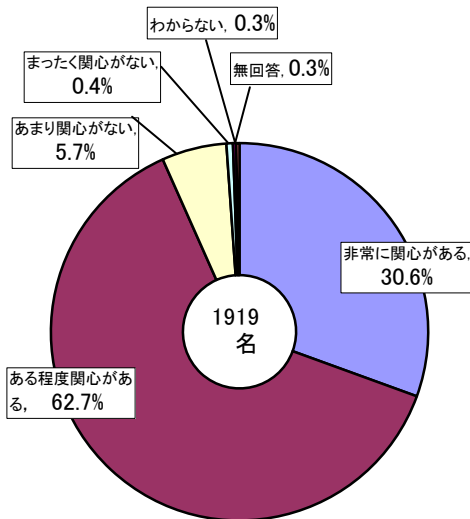
今年の10月に各都道府県下において行われた「環境にやさしい買い物」の実践を呼びかけるキャンペーンについて、「取り組みの内容を知っている」とする者の割合が32.6%（「聞いたことがあり、取り組みの内容を詳しく知っている」8.3%＋「聞いたことがあり、取り組みの内容をある程度知っている」24.3%）となっており、「聞いたことがない」と答えた者の割合37.3%を下回っている。

前回の調査結果と比較してみると、「聞いたことがあり、取り組みの内容を詳しく知っている」（8.4%→8.3%）と答えた者の割合には大きな差異が見られないものの、「聞いたことがあり、取り組みの内容をある程度知っている」（22.9%→24.3%）と答えた者の割合はわずかに上昇している。

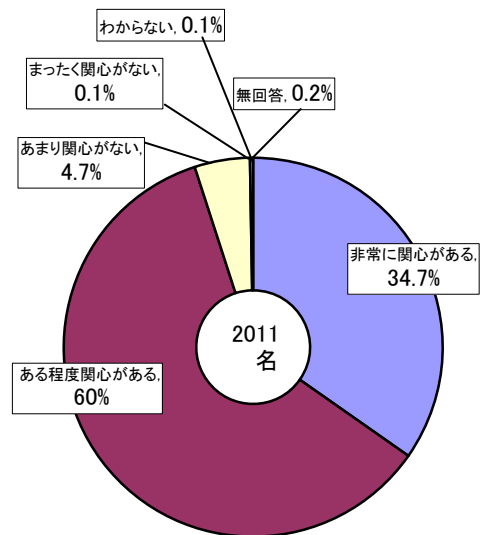
問7 我が国では、日常生活で消費されるエネルギーは全体の約3割を占めています。あなたは、日常生活の中で行う省エネルギーについて、どの程度関心がありますか。次の中から1つだけ○をつけてお答えください。（○は1つだけ）

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 非常に関心がある |
| 2 | ある程度関心がある |
| 3 | あまり関心がない |
| 4 | まったく関心がない |
| 5 | わからない |

H17. 11



H16. 11

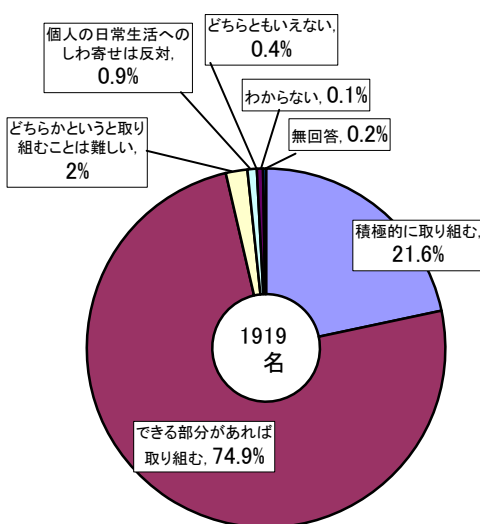


日常生活の中で行う省エネルギーについて、「関心がある」とする者の割合が93.3%（「非常に関心がある」30.6%+「ある程度関心がある」62.7%）、「関心がない」とする者の割合が6.1%（「あまり関心がない」5.7%+「まったく関心がない」0.4%）となっている。前回の調査結果（平成16年11月調査をいう。以下、問10まで同じ）と比較してみると、「ある程度関心がある」（60.0%→62.7%）とする者の割合がわずかに上昇する一方で、「非常に関心がある」（34.7%→30.6%）とする者の割合が低下し、その結果として「関心がある」（94.7%→93.3%）とする者の割合がわずかに低下している。

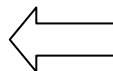
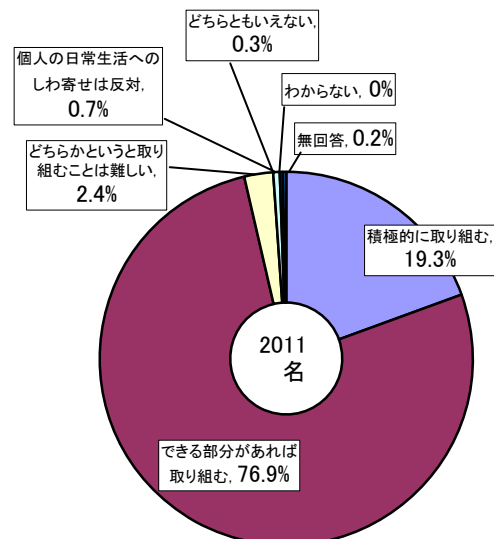
問8 あなたは、地球温暖化防止のため、個人の日常生活における取り組みについて、どのようにお考えになりますか。あなたのお考えに最も近いものを次の中から1つだけ○をつけてお答えください。(○は1つだけ)

- 1 積極的に取り組む
- 2 できる部分があれば取り組む
- 3 どちらかという取り組みことは難しい
- 4 個人の日常生活へのしわ寄せは反対
- 5 どちらともいえない
- 6 わからない

H17. 11



H16. 11

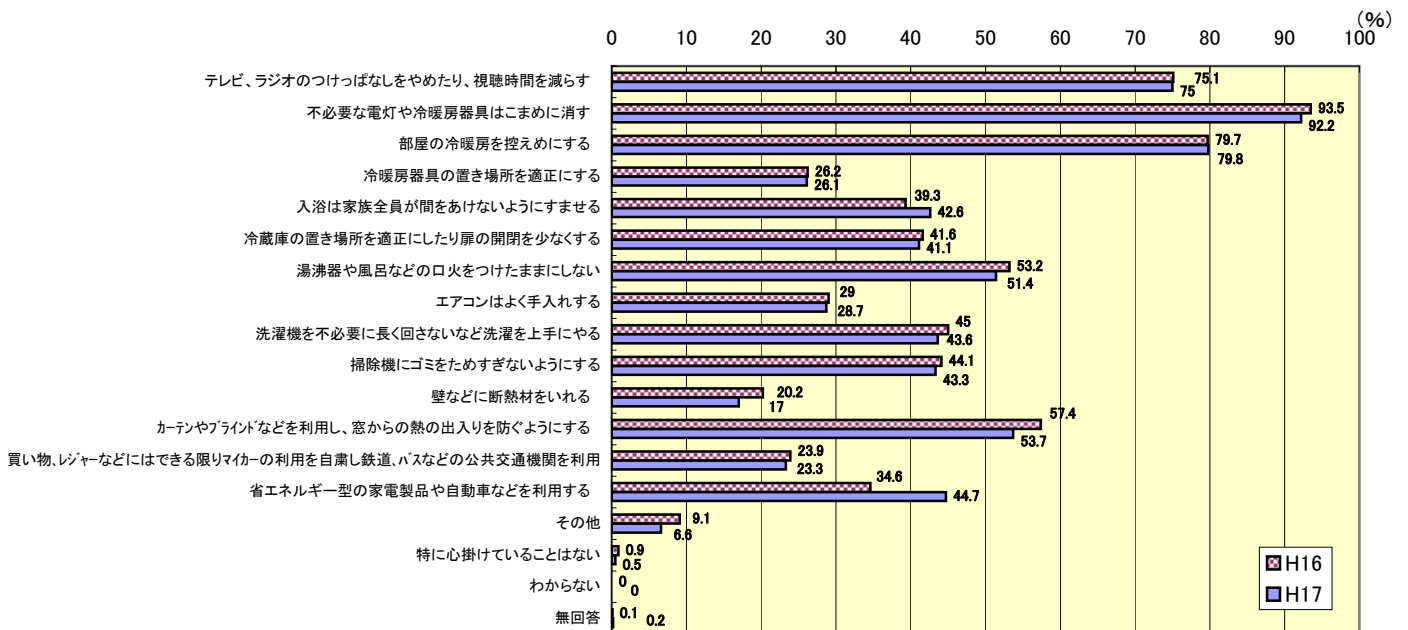


地球温暖化防止のため、個人の日常生活における取り組みについて、「取り組む」とする者の割合が96.5%（「積極的に取り組む」21.6%＋「できる部分があれば取り組む」74.9%）となっている。

前回の調査結果と比較してみると、「取り組む」（96.2%→96.5%）とする者の割合には大きな差異が見られないものの、「積極的に取り組む」（19.3%→21.6%）とする者の割合が上昇する一方で、「できる部分があれば取り組む」（76.9%→74.9%）とする者の割合が低下している。

問9 あなたは、日常生活の中で、エネルギーを節約するために、何か実際に行っていることがありますか。次の中からいくつでも○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 テレビ、ラジオのつけっぱなしをやめたり、視聴時間を減らす
- 2 不必要な電灯や冷暖房器具はこまめに消す
- 3 部屋の冷暖房を控えめにする
- 4 冷暖房器具の置き場所を適正にする
- 5 入浴は家族全員が間をあけないようにすませる
- 6 冷蔵庫の置き場所を適正にしたり扉の開閉を少なくする
- 7 湯沸器や風呂などの口火をつけたままにしない
- 8 エアコンはよく手入れする
- 9 洗濯機を不必要に長く回さないなど洗濯を上手にやる
- 10 掃除機にゴミをためすぎないようにする
- 11 壁などに断熱材をいれる
- 12 カーテンやブラインドなどを利用し、窓からの熱の出入りを防ぐようにする
- 13 買い物、レジャーなどにはできる限りマイカーの利用を自粛し、鉄道、バスなどの公共交通機関を利用する
- 14 省エネルギー型の家電製品や自動車などを利用する
- 15 その他 ()
- 16 特に心掛けていることはない
- 17 わからない



日常生活の中で、エネルギーを節約するために実際に行っていることとして、「不必要な電灯や冷暖房器具はこまめに消す」と答えた者の割合が92.2%と最も高く、以下、「部屋の冷暖房を控えめにする」(79.8%)、「テレビ、ラジオのつけっぱなしをやめたり、視聴時間を減らす」(75.0%)などの順となっており、反対に「壁などに断熱材をいれる」と答えた者の割合が17.0%と最も低く、以下、「買い物、レジャーなどにはできる限りマイカーの利用を自粛し、鉄道、バスなどの公共交通機関を利用する」(23.3%)、「冷暖房器具の置き場所を適正にする」(26.1%)などの順となっている。

前回の調査結果と比較してみると、「省エネルギー型の家電製品や自動車などを利用する」(34.6%→44.7%)と答えた者の割合が大幅に上昇するとともに、「入浴は家族全員が間をあけないようにすませる」(39.3%→42.6%)と答えた者の割合が上昇する一方で、「カーテンやブラインドなどを利用し、窓からの熱の出入りを防ぐようにする」(57.4%→53.7%)、「壁などに断熱材をいれる」(20.2%→17.0%)と答えた者の割合が低下している。

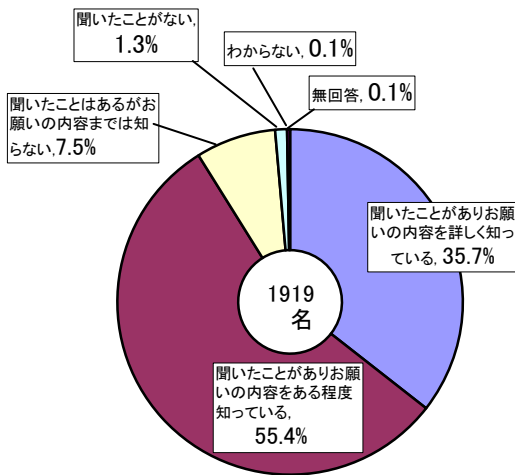
【その他の自由回答(主なもの)】

- 圧力鍋の利用等により調理時間を短縮している
- コンセントをこまめに抜くようにしている
- エアコンは使わない
- クールビスやウォームビスを日常生活に取り入れている
- 冷蔵庫にエアカーテンを取り付けたり、食品をつめ過ぎないようにしている
- 太陽光発電を設置している
- お風呂の残湯で、ふき掃除や洗濯などをしている
- シャワーや歯みがきの時には、水を流しっぱなしにしない
- 出掛ける時、近所ならば徒歩や自転車を利用している
- 不必要なアイドリングを減らしている
- マイカーに重い荷物を入れたままにしない

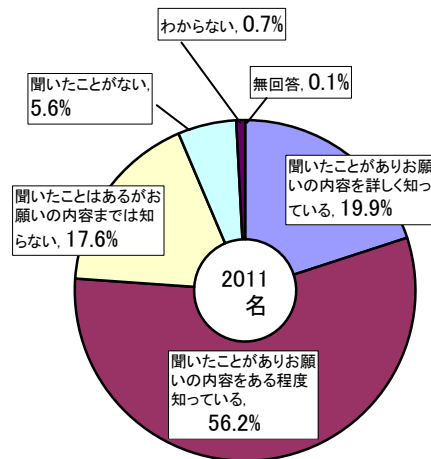
問10 政府では、毎年、夏季と冬季の省エネルギー対策を決め、各家庭などで省エネルギーに協力していただけるよう、ポスターやテレビなどを通じて、「冷房は室温28℃を目安に温度設定をしましょう」、「暖房は室温20℃を目安に設定しましょう」などのお願いをしています。あなたはこのことについて、どの程度ご存じですか。次の中から1つだけ○をつけてお答えください。（○は1つだけ）

- 1 聞いたことがあり、お願いの内容を詳しく知っている
- 2 聞いたことがあり、お願いの内容をある程度知っている
- 3 聞いたことはあるが、お願いの内容までは知らない
- 4 聞いたことがない
- 5 わからない

H17. 11



H16. 11



夏季や冬季の省エネルギーに関する政府の広報について、「お願いの内容を知っている」とする者の割合が91.1%（「聞いたことがあり、お願いの内容を詳しく知っている」35.7%＋「聞いたことがあり、お願いの内容をある程度知っている」55.4%）となっている。

前回の調査結果と比較してみると、「聞いたことがあり、お願いの内容をある程度知っている」（56.2%→55.4%）と答えた者の割合はわずかに低下したものの、「聞いたことがあり、お願いの内容を詳しく知っている」（19.9%→35.7%）と答えた者の割合が大幅に上昇した結果、「お願いの内容を知っている」（76.1%→91.1%）とする者の割合が大幅に上昇している。